

大津市の英語教育について

彦根市立城西小学校

教諭 宮塚 江理

大津市の小・中学校

大津市の人口 342,908人 (H30.6.1現在)

市立小学校: 37校 学級数 738クラス 児童数 18,631人
教員数 (本務者) 1,076人

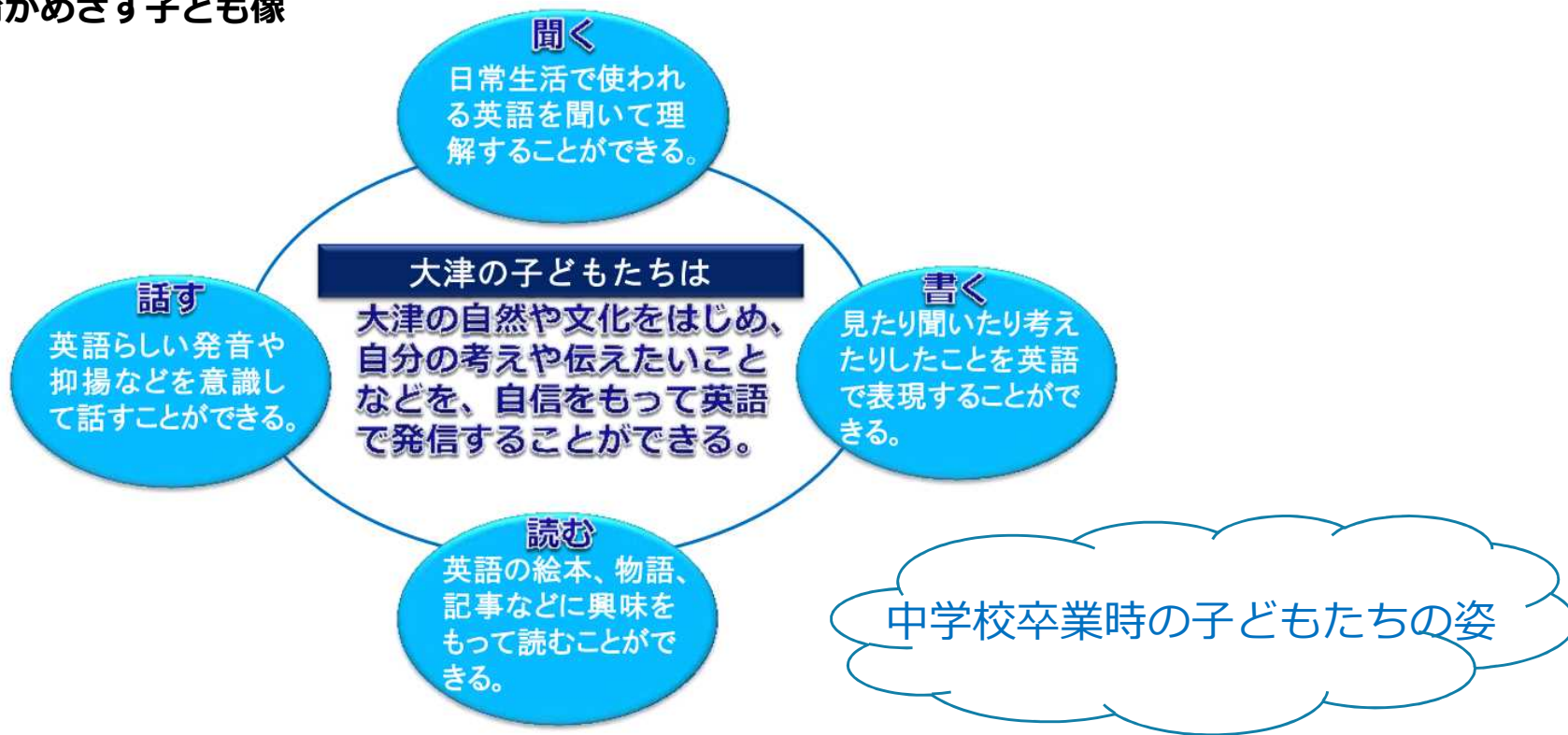
市立中学校: 18校 学級数 329クラス 生徒数 9,057人
教員数 (本務者) 629人



引用・参考：平成29年度学校基本調査 大津市HP掲載

大津市の英語教育

大津市の英語教育がめざす子ども像

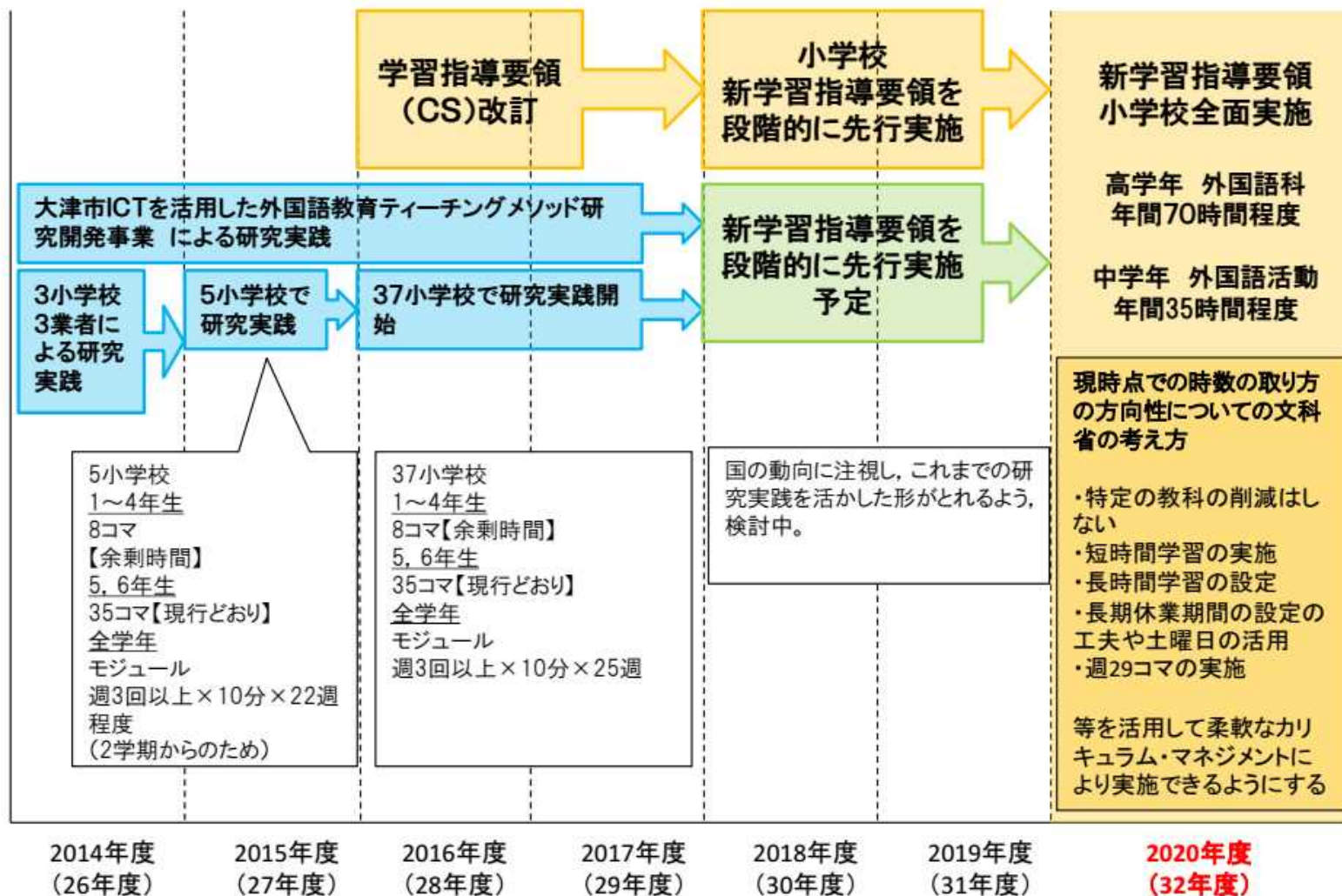


小学校の取り組み

小学校1年生からの外国語活動とモジュール授業



英語に触れる機会を増やす！



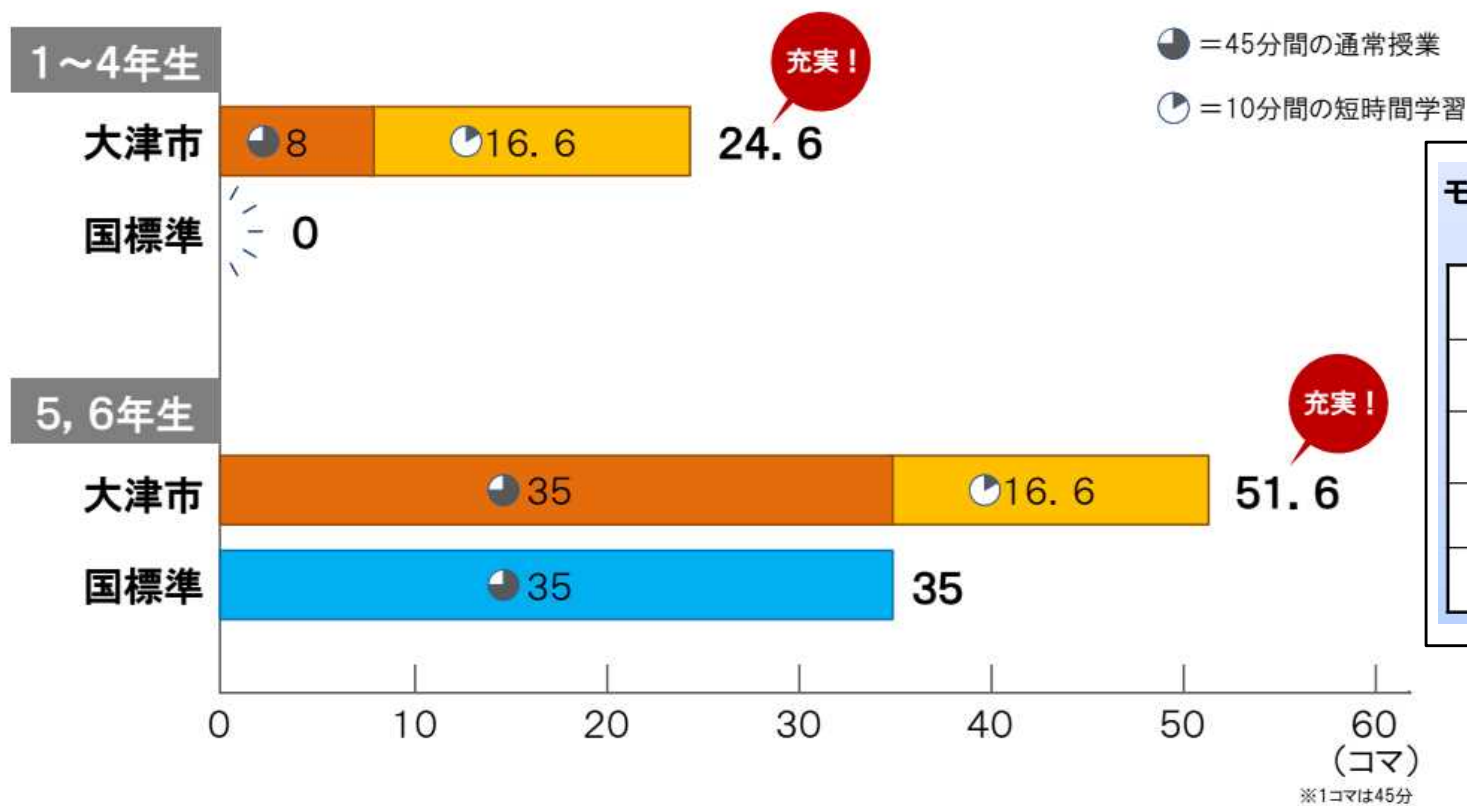
5小学校
1～4年生
8コマ
【余剰時間】
5, 6年生
35コマ【現行どおり】
全学年
モジュール
週3回以上×10分×22週
程度
(2学期からのため)

37小学校
1～4年生
8コマ【余剰時間】
5, 6年生
35コマ【現行どおり】
全学年
モジュール
週3回以上×10分×25週

国の動向に注視し、これまでの研究実践を活かした形がとれるよう、検討中。

平成28, 29年度

外国語活動の時間数



モジュール授業の実施時間帯

実施時間帯	学校数
朝	11校
2,3校時の間	1校
昼	24校
帰り	1校

使用教材等の紹介

45分間の授業

○児童用テキスト

1～4年生 Let's Begin

5～6年生 Let's Go

○デジタル教材 iTools

教師用絵カード (1クラス1セット)

児童用絵カード (1クラス8セット)

短時間授業 (10～15分)

○絵本

Oxford Reading Tree

○歌やチャンツ

Children Jazz Chants©

○カードゲーム

独自テストの結果より

①話す力, 聞く力の測定結果 (本市独自テスト 平均正答率)

	H27年度 (モデル5校)	H28年度 (37校)	H29年度 (37校)
話す力 5・6年対象	94%	89%	実施中
聞く力 全学年対象	90%	91%	実施中

※H27年度はテスト内容・実施方法を研究開発。

※H27年度とH28年度では、テスト内容、実施方法が異なる。

成果

児童が英語で「話す力」・「聞く力」は高い数値であった。

課題

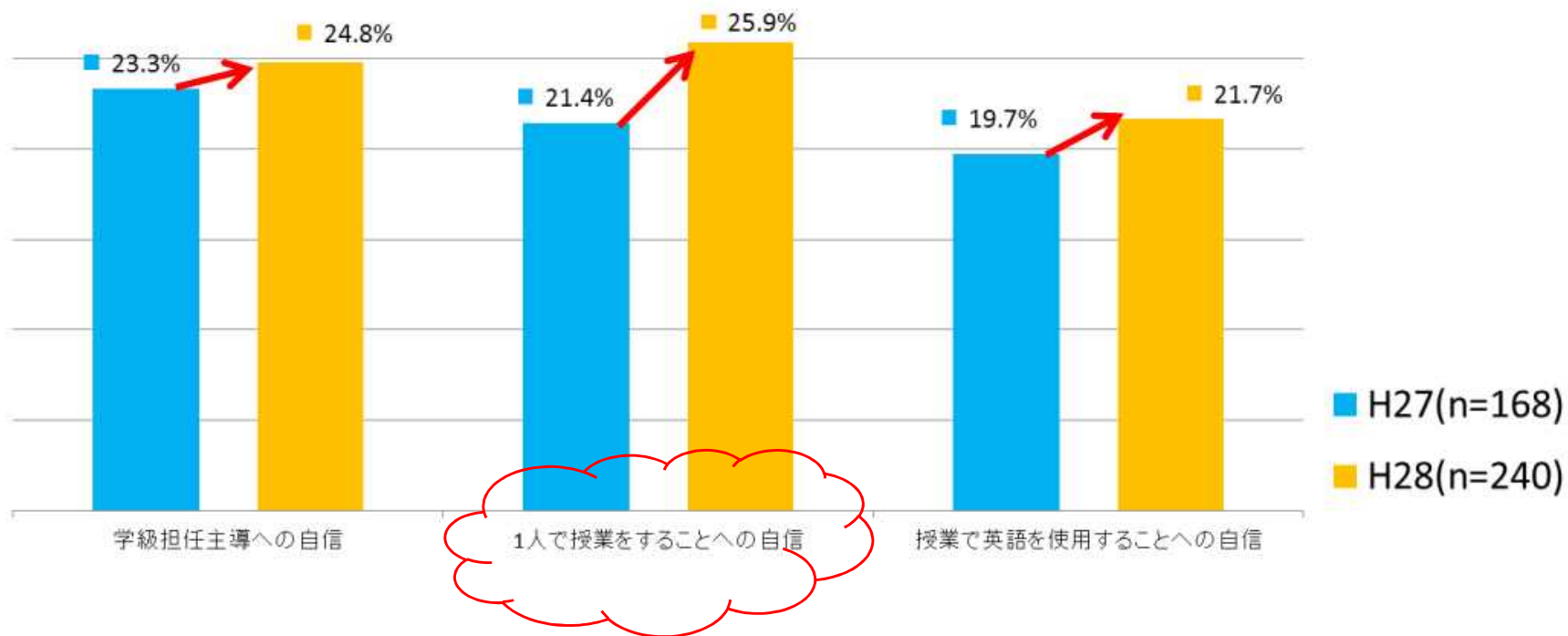
今後、「読む力」・「書く力」の学習指導への対応が必要。

教員アンケートより



成果：小学校教員の授業への自信が向上







課題：授業で英語を使用することへの自信は低い

「とても自信がある」、「自信がある」と回答した教員の割合



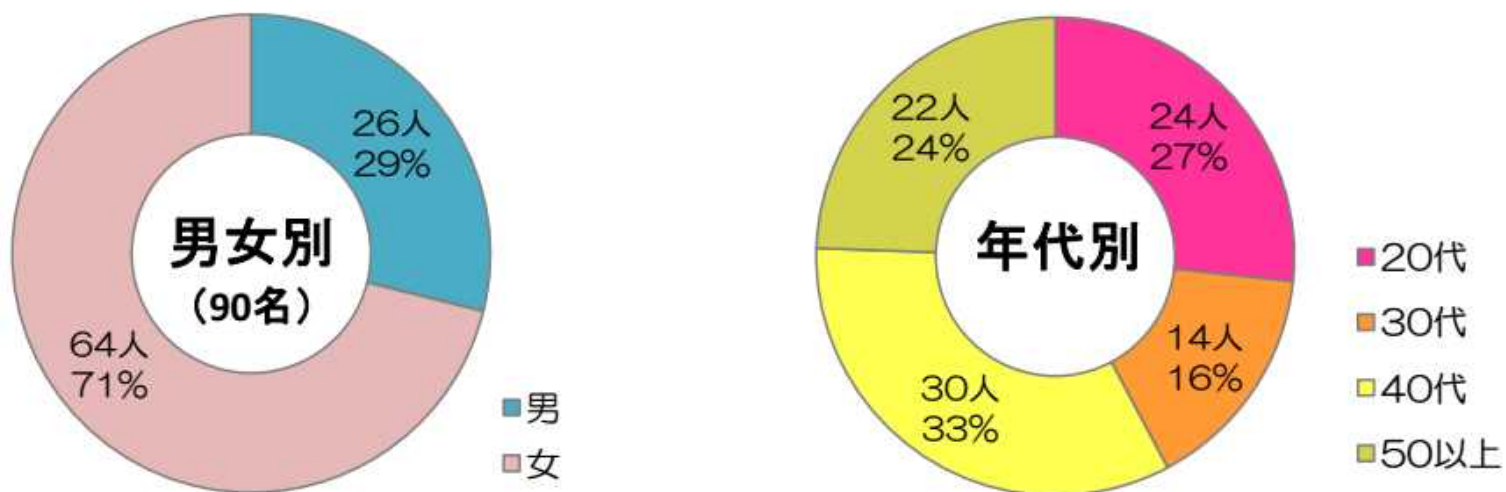
平成30年度以降の使用教材について

-  …国の新教材：平成30年度から配布される
-  …オックスフォード教材：デジタル教材、テキスト、絵本、カード等を示す

	平成30, 31年度 (移行措置期間)	平成32年度以降 (全面実施後)
第1,2学年	 オックスフォード教材	 オックスフォード教材
第3,4学年	主として  国の新教材	副教材として  オックスフォード教材
第5,6学年	主として  国の新教材	副教材として  オックスフォード教材

中学校の取り組み

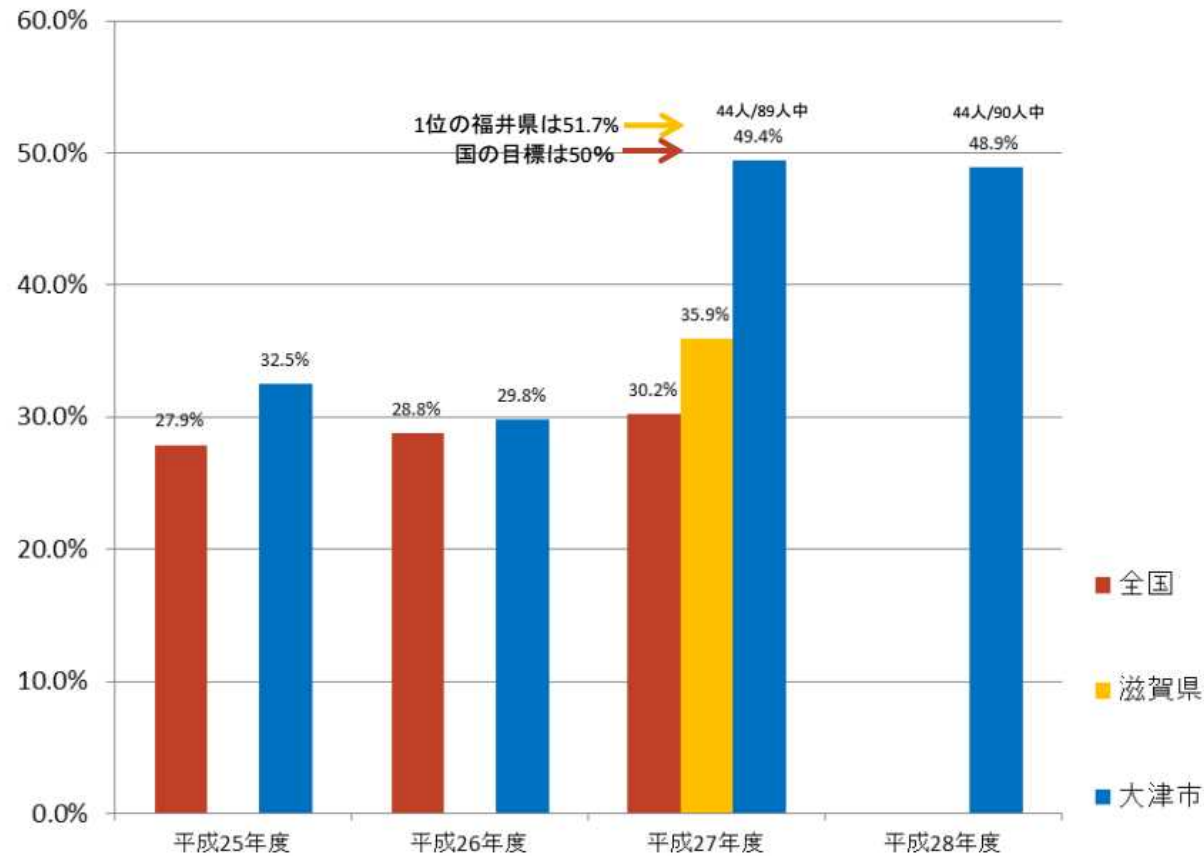
1 市立中学校英語担当教員の内訳



注1) 平成28年12月1日現在、市立中学校で授業を担当している者(教頭、教諭、常勤講師)の数。

注2) 産育休および研修派遣教員は含まない。

2 英語担当教員の英語力の状況（国による「英語教育実施状況調査」より）



注3) 文部科学省の求める英語力とは英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC 730点程度以上。(第2期教育振興基本計画より)

注4) 調査基準日は12月1日現在。

注5) 都道府県別の結果は平成27年度より公表。

注6) 平成28年度は速報値のため大津市のみ掲載。

英語教員の海外集中語学研修

中核英語教員 (CET)

プロジェクト会議のメンバー

研究実践校の教員を含む

教諭経験が5年目以上



セブ島での集中語学研修

日本から4時間半

2週間滞在

マンツーマン授業

1日10コマ以上

英語教授法など

ボランティア活動



英語科教員とALTとのオールイングリッシュ授業

プロジェクト会議

英語科教員

教育委員会

ALT派遣会社

指導案作成

フィードバック

教員研修

公開授業

指導助言

研究実践

研究実践校



中学校における実践型英語授業研究開発事業



中学校における実践型英語授業研究開発

(1) 事業の概要と目的 <実施要項抜粋>

英語教員と外国語指導助手（ALT）とのチーム・ティーチングの授業（TT）を英語で行うことで、小学校低学年から外国語活動を受けてきた子どもたちが、中学校でさらに「聞く」「話す」力を中心に伸ばし、将来にわたる「英語を使う力」を身に付けられるよう、指導案、教材などを研究開発する。

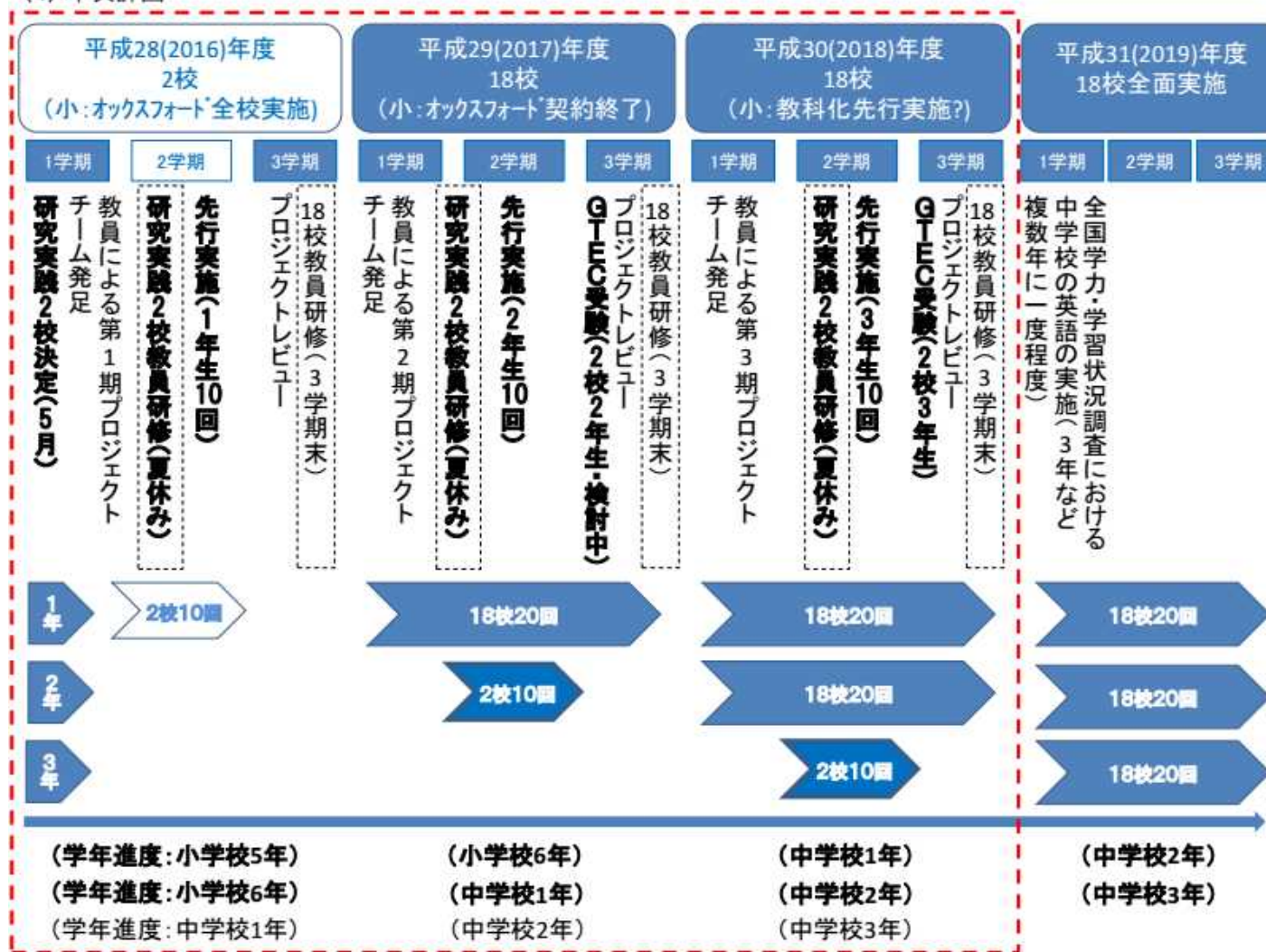
(2) 期間

平成28年度から30年度までの3年間

(3) 対象学年

平成28年度は1年生、29年度は2年生、30年度は3年生とする

(4) 年次計画



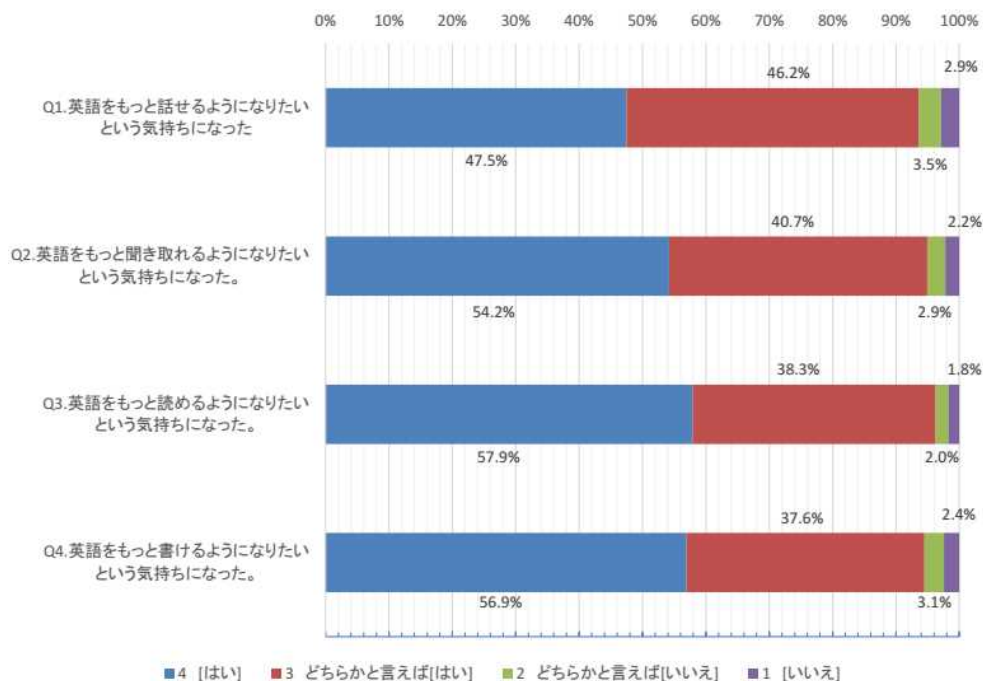
GTEC
for STUDENTS

「聞く」「読む」「書く」の3技能を測るスコア型英語テスト。「Speaking(話す)」もオプションで受験可。中高生受験者数は全国で平成27年度は80万人、28年度は90万人を越える見通しで、県内では20以上の高校で実施。小学生向けGTEC Juniorも今冬リリースされ、4技能を測ることができる。

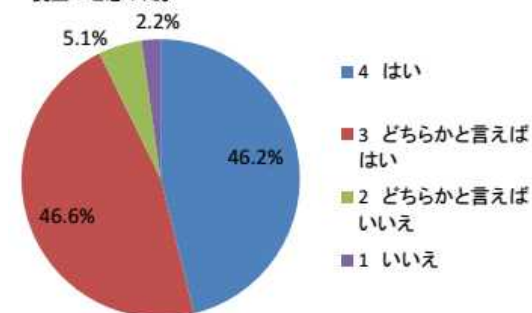
生徒アンケートより

中学校における実践型英語授業研究開発事業に関する生徒アンケート（2月末実施）

2学期から、英語の先生と外国人の先生(ALT)とによるすべて英語による授業を受け、一番近いと思われるものに○をつけてください。(n=455)



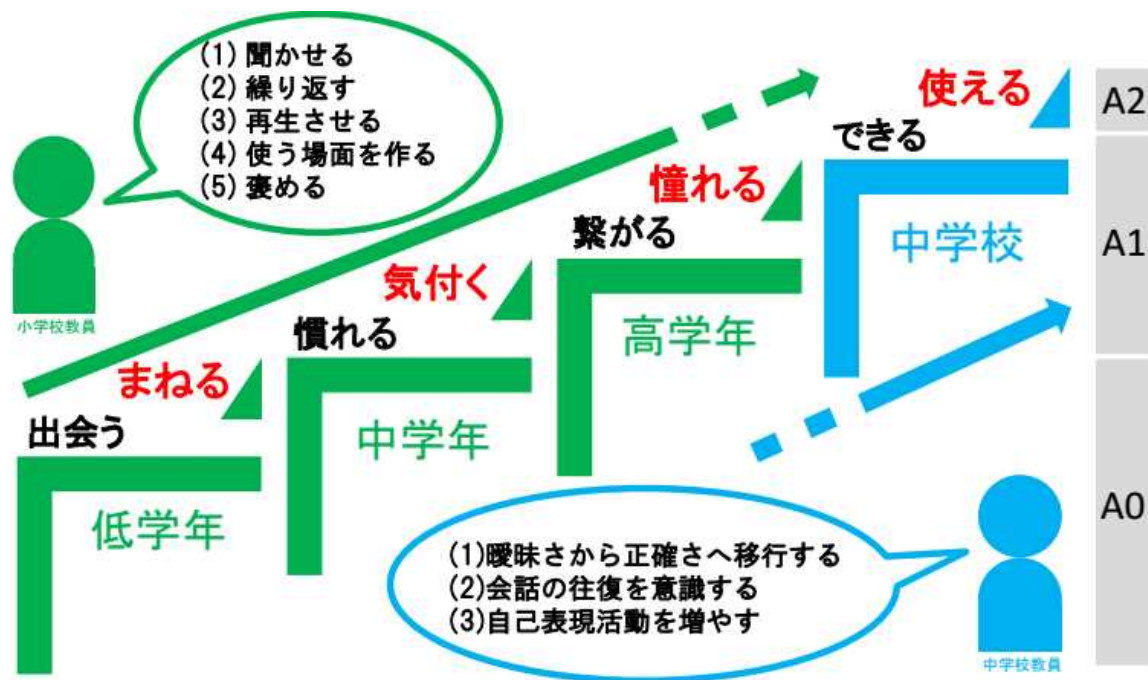
Q5. すべて英語による授業は、英語力を伸ばすのに役立つと思った。



アンケート結果より

- Q1からQ4より、9割以上の生徒が英語をもっと話せるようになりたいなど、前向きな気持ちでいる。
- Q5より、生徒がすべて英語による授業を肯定的に受け止めていることが分かる。
△生徒は定期テストなどで比重の高い「読む」「書く」力をより伸ばしたいと考えているのではないかと推察される。
△オールイングリッシュ授業であるが「話す」「聞く」に偏らず4技能をバランス良く指導する必要がある。

小・中学校のつながりを意識

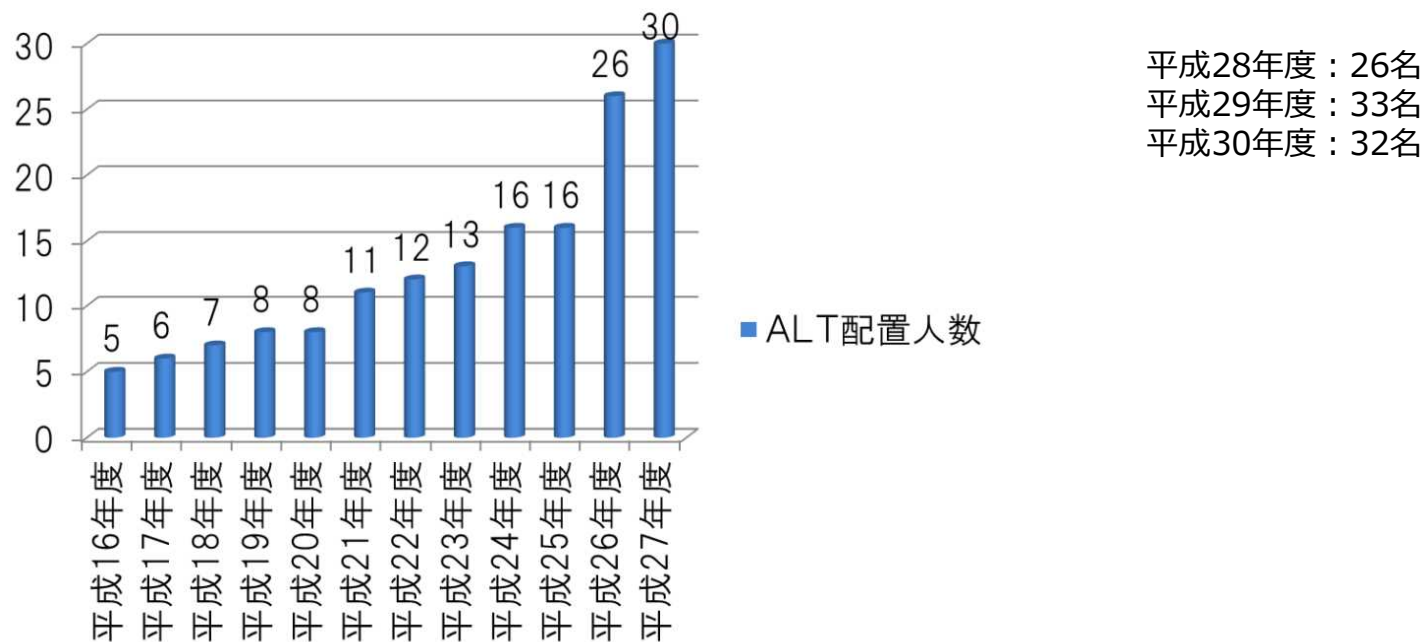


CEFR (セファール: ヨーロッパ言語共通参照枠) ※出典: NHK出版

A2	日常生活での身近なことがらについて、簡単なやりとりができる
A1	日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやりとりができる
A0	ごく簡単な表現を聞きとれて、基本的な語句で自分の名前や気持ちを伝えられる

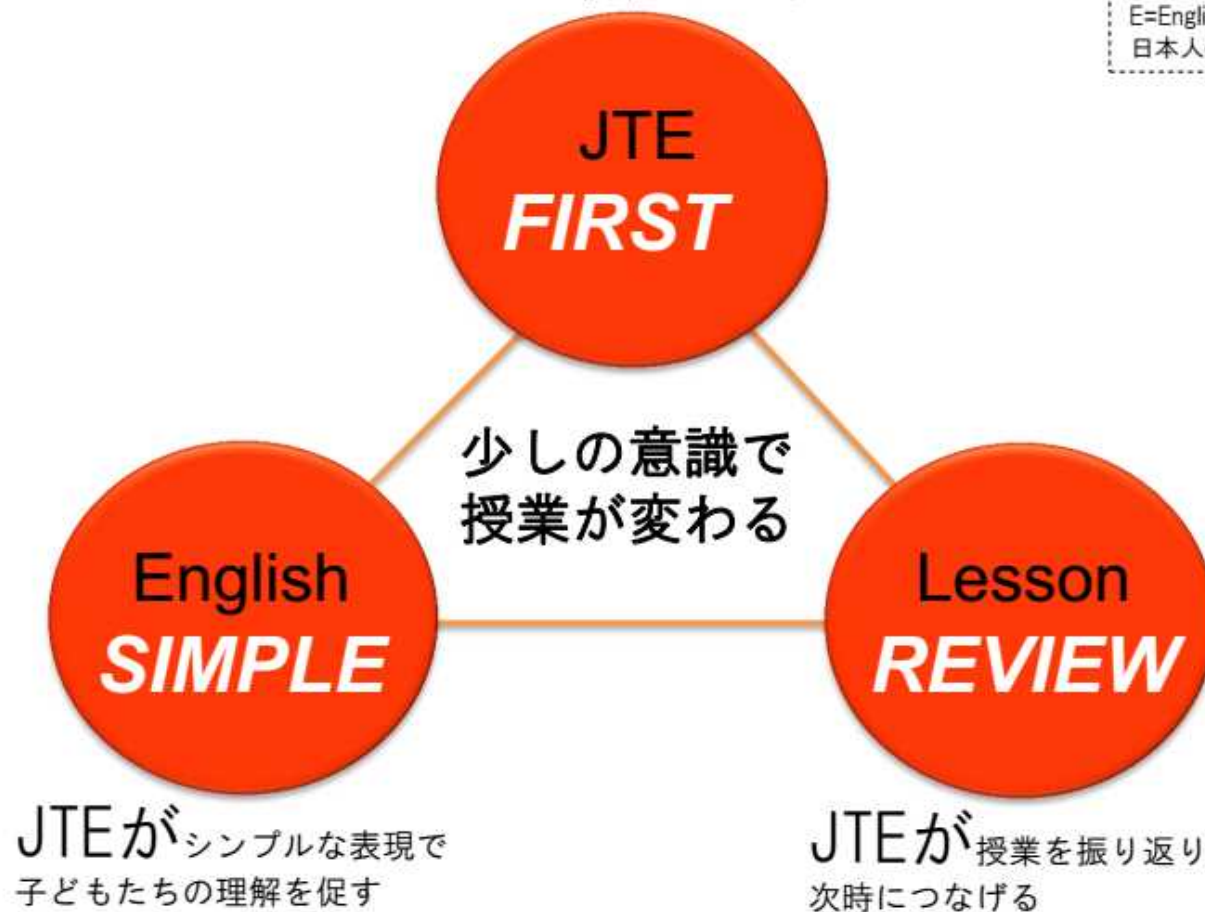
A L T について

大津市外国語指導助手（A L T）配置人数の推移



JTEが授業をリードする

J=Japanese
T=Teacher of
E=English
日本人の英語教員



環境改善

- ・ALTの効果的な配置
- ・民間業者などとの連携

授業力強化

- ・授業の見直しと改善

英語力向上

- ・教員研修の充実

中学校

- ・オールイングリッシュ授業の指導案、教材の作成

- ・英語による授業の推進
- ・先進校の視察

- ・海外派遣研修の実施
- ・英語力検定試験の助成

小学校

- ・モジュール及びコマ授業で使用する指導書の改善
- ・モジュール授業教材の充実

- ・放課後バックアップ研修の継続と充実
※課題や要望に合わせ、各校に出向いて45分～1時間程度の実技を交えた研修を行う。
- ・希望研修の充実
※すぐに使えるアクティビティ、歌やチャンツ、絵本の読み聞かせ、教室英語など、教員が力を伸ばしたいジャンルに応じて選択できるよう研修内容を工夫する。



小学校バックアップ研修



夏季希望研修



海外派遣研修

With Confidence!(自信をもって)





I appreciate your attendance.
Thank you.